

町雑誌

千住

保存版



特別頒価二百円

●特集● 映画や文学の舞台になった千住【後編】

●連載● 千住蔵の町／千住考現学
千住明治の女伝

VOL.7

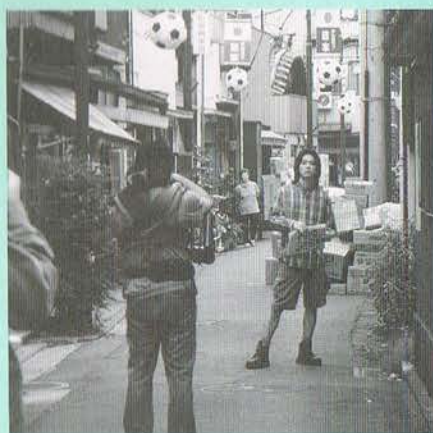
MachiZasshi Senju

本号を取材中、柳原の街角で、黒沢清氏監督、西島秀俊、役所広司出演の映画の撮影部隊に出会った。スタッフの方が、「() 雲囲気のある商店街って、都内にはもうあまり残っていないよね」と話してくれた。『ニンゲン合格』というその映画のタイトルから、ただ生きる日常から一歩はなれて、人間の生を今一度つきつめてみようとする映画の意図が、かいま見える。

路地の奥や商店街、水辺や町工場……千住のところで、今も絵になる風景が見つけられる。千住のなかの「絵になる風景」は、変化していく現代社会を見慣れた目には新鮮な一シーン。昔から変わらぬ町場や川

辺のただすまい、また対照的に一見人を突き放すかのように見える無機的、機械的な風景。しかしすれにせよ、その魅力は建物や風景の希少価値というよりは、良くも悪くも人が懸命に生きる息遣いの密度の濃さなのかもしれない。今も昌も変わらぬ……。

『舞台になった千住・後編』では、千住で暮らし、千住を描いた作家達にも登場いただきました。多彩な千住を感じていただければ幸いです。



映画『ニンゲン合格』の撮影が一部千住でなされた。99年春、全国テアトル系で公開予定。みんなで見に行こう。(1998年6月、柳原の路上で)

表紙写真

上 著者たち、昭和42年森川時久監督の『仕事』公開30周年を記念して全国で再上映を開始している。
 下 『3年B組金八先生』のロケは、大半が、千住。なんと毎回卒業アルバムまで作っているというノリの良さ。

目次

特集 映画や文学の舞台となった千住



連載

- 1 金八先生の千住
- 6 柳原がいっぱいの千住 著者たちのようなもの
- 8 千住で暮らし作家
- 8 森鷗外の千住
- 10 早乙女勝元の千住
- 12 増田みず子の千住
- 14 吉村昭の千住
- 15 宗田理(はぐらシリーズ)の千住
- 16 推理小説の千住
- 17 稲荷横丁の千住
- 18 正岡子規の千住
- 20 千住十色
- 22 千住蔵の町
- 24 千住考現学
- 26 千住の名前で出ています
- 27 千住明治の女伝
- 28 お願いなご

「千住蔵の町」町歩きしませんか

裏表紙